興陽高第 304 号
令和５年３月 31 日

岡山県教育委員会　殿

岡山県立興陽高等学校長
中　野　　功

令和４年度　岡山県立興陽高等学校　学校評価書

１　自己評価

Ⅰ　評価結果（別紙参照）

Ⅱ　分析・改善方策

学校経営計画書の学校経営目標を５つの評価項目に分け、年度当初に各課長を中心に具体的な方策をそれぞれに設定し、10 月に中間期の検証を、３月に最終の評価を行った。

学校生活での挨拶や言葉遣いなど基本的マナーや規範意識の定着、ICT を活用した家庭学習時間の向上、SDGｓの視点による環境整備・美化意識の向上、企業見学やインターンシップによるキャリア教育の推進等の取組を計画した。

本年度もコロナ禍ではあったが、体育祭・文化祭などの様々な行事を通して、主体的に行動する生徒の育成を進めることができた。また、専門性を生かした各種行事により地域貢献を果たし、進路開拓と進路実現にも成果が見られた。特に本年度は、校則の見直しを生徒主体で、地元企業の協力も得ながら実施することができ、生徒たちの自己肯定感の醸成にも繋がった。今後も、引き続き具体的な方策を立案・実施していく。

２　学校関係者評価委員名

池上　博道（岡山市立藤田公民館長）	岡　　秀雄（玉野市公園緑化協会事務局次長）
国定　　豪（本校同窓会副会長）	平井　照代（ＪＡ岡山藤田支所長）
吉平　美子（本校ＰＴＡ会長）	今井　　伸（藤田神社宮司）
川田ちえみ（岡山市六区保育園長）	妹尾　健二（藤田地区民生委員児童委員協議会長）

３　学校関係者評価

少しずつではあるが評価の点数が右肩上がりになっているのは、学校経営目標・計画がまずまずの成果を上げていることの表れだと判断する。特に進路指導で具体的な成果が出ており、先生方の努力を感じる。授業においてタブレット端末等の ICT 機器が活用されており、生徒の順応に驚くとともに先生方の苦労も理解した。生徒には ICT 機器の有効な活用法を引き続き指導し、社会に出ても困らないようにしていただきたい。

コロナ禍にもかかわらず、専門学科において更に活発な活動ができており、特に興陽高校の入試倍率が全体で確保できたことは、様々な取組の成果の表れである。今後も興陽高校ならできる、興陽高校でしかできない取組をさらに充実させて欲しい。そして、新しくなったホームページで更なる情報発信に努め、今後も入試倍率の確保につなげてほしいなど、現状の方向を維持・発展させていくべきとの意見を多くいただいた。

４　来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

これまで取り組んできたことをさらに継続・推進し、実際に生徒が社会の変化に対応できるよう、育てたい生徒像（Graduation Policy）として「凡事徹底する力」「前に踏み出す力」「主体的に学ぶ力」「進路実現する力」「自己肯定感を高める力」の５つの力の育成を引き続き目指す。

現在、地域と連携している学びの場がより質の高い学びの場になるようにし、本校の魅力を積極的に情報発信できるようにする。

「興陽魂を発揮して　One アクション！　One レベルアップ！」「興陽ならしか！　勇気を持ってチャレンジをしよう！」をスローガンに、新たな行動を始められるよう取り組み、地域社会に貢献できる将来のスペシャリストの育成を目指す。